

## 依存性と信頼感の関連に関する研究

### - 依存の拒否に焦点をあてて -

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
臨床心理学領域  
久保田 恵理

本研究では、依存性と信頼感とが何らかの関連を持つと推測されたため、依存性と信頼感との関連について取り組んでいくことを目的とした。特に、適応上問題を含んでいると考えられる依存性の拒否に着目して、青年期後期の大学生が友人に向ける情緒的な依存性と信頼感の関連について、男女別に検討した。さらに、依存性のあり方を分類することによって依存型を作成し、その依存型と信頼感との関連についても検討した。398名の大学生を対象に、大学生の依存対象を尋ねる問いと、信頼感尺度、友人への依存性尺度の3つから構成される質問紙を配布し、調査した。

依存性を「他者の反応および他者の存在から、精神的な安定や問題解決の糸口などを得ようとする欲求で、人間に対する関心の向け方を記述する一つ概念」と捉え、「依存欲求」「依存の拒否」「成熟した依存」の3つから捉えた。依存性と信頼感の関連について検討する際、大学生の依存対象を確認した上で、それらの関連について検討した。その結果、多くの大学生が同性の友人を依存対象として選ぶことが、確認された。

次に、依存性と信頼感との関連には、男女に共通して見られた関連と、性別によって異なった関連の2つがあることが明らかになった。男女に共通して、「依存の拒否」と「成熟した依存」は、信頼感との間に対称的な関連を示した。「依存の拒否」は、「対他的信頼」および「対自的信頼」と負の相関を示し、「不信」と正の相関を示した。「成熟した依存」は、「対他的信頼」および「対自的信頼」に正の相関を示し、「不信」と負の相関を示した。「依存欲求」は、「対他的信頼」と正の相関を示したが、「不信」とは関連が見られなかった。また、女性においては、「依存欲求」と「対自的信頼」にも正の相関が見られが、男性には関連が見られなかった。

さらに、依存性のあり方を分類した依存型と信頼感との関連について調べた結果、「依存の拒否」のみを高く示す依存型は、「対他的信頼」および「対自的信頼」が低く、「不信」が高かった。「依存欲求」と「依存の拒否」の両方を高く示す矛盾した依存型は、「対他的信頼」が低く、「不信」が高かった。「成熟した依存」のみを高く示す厳密な意味での成熟した依存型は、「対他的信頼」および「対自的信頼」が高く、「不信」が低かった。「依存欲求」と「成熟した依存」の両方を高く示す依存型は、「対他的信頼」および「対自的信頼」を高く示し、「不信」が低かった。

最後に、友人への依存性尺度について性比較をした結果、女性が男性に比べ「成熟した依存」を高く示した。また、性別によって、多く見られる依存型が異なった。